



第 52 号 (年 4 回発行) 編集発行 前学 院大 学 会 弘 報 委 員 会 印刷所 (有)小野印刷所

# 2013 (平成25) 弘前学院大学入学式挙行

## 入学式式辞



学長 吉岡 利忠

この度、文学部第43回の入学式として日本語・日本文学科34名及び英語・英米文学科38名、社会福祉学部第15回の入学式として社会学科51名、看護学部第9回の入学式として看護学科69名、大学院文学研究科修士課程第9回として3名、総勢195名の皆さまを弘前学

院大学にお迎えすることができました。さて、弘前学院大学は、3学部、4学科、2大学院研究科を擁し、教育の背景にはキリスト教の精神が流れており、東北にあつては、これに基づいた教育が127年の歴史を刻み、同時に伝統を積み重ねている大学であります。また、弘前学院聖愛中学校・高等学校を加え中・高・大・大学院として一貫の教育を行っており、地域に根差した研究教育機関として広く知れ渡っております。弘前学院大学は、理事長・学院長の揮毫

によるものですが、大学の建学の精神、スクールモットーである「畏神愛人」の書が飾られております。聖書から取られたものですが、神に対して敬う心を持ち全ての人々を愛する、という精神です。入学された皆さんは教職員とともに、毎日、この建学の精神を根底に教育・研修を受けることとなります。また、私が日頃考えておりました、「時間」についてお話ししたいと思います。時間とは、過去から現在そして未来に連続し永遠に流れて行くものだと思いますが、ある時刻の始まりから他の時刻の終わりまで区切りのある期間を言うこともあります。授業時間とか休憩時間とか睡眠時間などは正しくその意味を含むものであります。高校では、一学期、二学期、三学期と三つに期間を分けていることが

多いと思いますが、大学では、前期、後期と二つに分けています。これも区切りのある期間です。入学した皆さんを考えますと、限りある時間、すなわち、大学4年間で卒業しなければならぬし、修士としては2年間で修了という区切りのある期間でもあり、学業継続時間とも言えるものでしょう。しかし、一生涯という長いスパンでみると学生時代はほんの数日間という時間の流れの一部分に入ってしまうのです。そう考えますと、この期間、是非、有効にかつ有意義な期間として使わなければなりません。

また、皆さんの小学生の頃を思い出して下さい。その頃、小学校そのもの、小学校の教室、校庭、遊び場などは、遊び場などは、遊び場に広く感じたものでした。広さの感覚もそうですが、時間の感覚も同じように小学生の一年間も長



2013 (平成25)年4月3日 入学式

く感じたものでした。十数年後の、今、卒業した小学校の校庭に立ってみると狭かったのだから、こんな狭い校庭でよく遊んだものだと感じたことがあると思います。また、時間に関しても、20歳前後になると一年過ぎるのは早く感じるようになります。歳をとると更にその感覚が強くなります。幼少の頃の一年間と今の一年間とは時間の概念が違うように思われます。さらに、嫌な仕事、会いたくない人との付き合い、興味の湧かない授業・講義を受けている時など一分間が物凄く長く感じるし、逆に、好きな本を読んでいる時、親しい人と会っている時、興味のある講義を受けている時、何かに夢中になっている時など、あっと言う間に時間が過ぎてしまいます。

皆さんは、高校時代は如何だったでしょう。短かった3年間と感じている皆さんは多いと思います。そんな意味から、大学ではさらに短く感ずる時間を過ごすことと思えます。その短く感じる時間、全てを有効・有意義にお使い下さい。私たちも協力致します。

また、弘前市内にある六つの高等教育機関で組織されている「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」があります。大学の垣根を越え学生同士でさまざまな企画を考え、学都ひろさき”の活性化に結び付けようという取り組みであり、弘前市からも支援を得て、各大学との学術的交流、学生が主体となつてセミナーの開催、市長との懇談会、合同文化祭、弘前中心街でのイベント、若い世代が街を盛り上げようと熱くなつていいます。どうぞ、新入生の皆さんも積極的に参加して頂きたいと思

います。どうぞ、奮つてご参加ください。本学には、特徴的な研究機関として地域総合文化研究所があります。地域の文化を学術的・総合的な視野から調査研究することを目的としており、「地域学」という学術書の発行はすでに第10巻となり、一つの区切りを迎えました。

さらに、弘前学院大学は、国際交流に力を入れております。米国ウイスコンシン州にあるウ

イスコンシン大学、ヴァージニア州にあるシェナンドー大学、イリノイ州にあるノースセントラル大学、中国の上海華遠国際教育機関、韓国ソウルにある培花女子大学、釜山にある釜山科学技術大学と姉妹校提携が結ばれており、学生・教員の行き来があります。全て、国際的感覚を身に付けるためのカリキュラムが設定されております。

また、弘前市内にある六つの高等教育機関で組織されている「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」があります。大学の垣根を越え学生同士でさまざまな企画を考え、学都ひろさき”の活性化に結び付けようという取り組みであり、弘前市からも支援を得て、各大学との学術的交流、学生が主体となつてセミナーの開催、市長との懇談会、合同文化祭、弘前中心街でのイベント、若い世代が街を盛り上げようと熱くなつてい

ます。どうぞ、新入生の皆さんも積極的に参加して頂きたいと思

います。どうぞ、奮つてご参加ください。本学には、特徴的な研究機関として地域総合文化研究所があります。地域の文化を学術的・総合的な視野から調査研究することを目的としており、「地域学」という学術書の発行はすでに第10巻となり、一つの区切りを迎えました。

以上、私からの式辞といたします。本日は、誠におめでとうございました。皆さまに神の恵みをお祈りいたします。God Bless You. 2013 (平成25)年4月3日

## 本多庸一とキリスト教 (24)

学校法人弘前学院

理事長 阿保 邦弘



### 日清戦争と本多

一八九四(明治二十七年)夏、日清戦争が勃発した。八月一日、

宣戦布告、本多はキリスト教各派に呼びかけて「清韓事件基督教徒同志会」を結成し、自らその委員長となった。同志会の目的は、この戦争が義戦であることとを明らかにし、国民精神を鼓舞するために国内各地に講演会を開催すること、戦地に軍隊慰問便を送ることであった。戦争は日本側の優勢のうちに展開したが、本多は「宣戦詔勅俗解問

答」というパンフレットを発行、頒布した。本多は、朝鮮や中国は元々日本に文化を伝えた恩のある国であるが、現在の政府が悪いので、中国を討ち、朝鮮の独立をはかることは一種の恩返しであり、本多の愛であるとして、この戦争の意義を述べている。この戦争は正義を守るための戦争、つまり義戦であると強調するのである。出征軍人用として「軍人必読養勇論」という小冊子を軍隊に配布した。キリスト教の教えをもとにして、軍

人の心構えを説いたものであった。戦局は進展し、十一月には旅順陥落、翌二十八年二月日本軍は威海衛を占領した。この二月申請中の戦地軍隊慰問便派遣が許可され、本多自ら戦地に赴くことになった。二月中旬本多は戦地に出発したが、その途上大本営(大日本帝国陸軍及び海軍の最高司令機関)のおかれた広島に立ち寄り、ここで最初の軍隊慰問演説を試みた。かれはまず自分も武士の家に生まれ維新

の砲声をくぐつたと、その経験語り、国家と天皇の上に天佑があることを述べ、キリスト教を説き、身を殺して仁をなすこと、軍人の精神もこれと等しいこと、犠牲として清き供え物となるのであるから道徳を重んずべきことを教え、靈魂の不滅を説いて結んだ。本多の大陸での行動は明らかではないが、おそらく各地の部隊で広島の演説と同様の内容を説いて歩いたことであろう。こうして本多は「義戦」のために東奔西走したのである。

何故本多はこれほどまでに熱心に日清戦争遂行に協力し、かれとして珍しいほど積極的な行動に出たのであろうか。戦後本多は岡田哲蔵に充ててこう書いた。「...小生は一度も弾子の飛び交ふを見ずして帰れり。頗る本意なきがごとし。しかれども深く考ふれば慰問のためにはまた実に好時期なりき。生等逆流にして半生を浮かべたるもの幸いに少しく国家のことに關するをえたり榮余りありと云ふべ

し。逆流に半生というとき本多は思い万感胸に迫るものがあったであらう。個人としてはその出自においても経歴においても、常にエリート・コースに身をおきながら、思えば彼の歩いた道は、常に反主流派のそれであり、日の当たらないわび野党の道であった。若くして維新の動乱の渦中に微妙な動きをした津軽藩士の悲哀を体験し、弘前士族としては明治薩長閥政府に便乗する機会なく、政治家として自由民権運動に挺身

して政府主流と対立し、宗教家として外来の耶蘇教の伝道者として時流から疎外されてきた。それが、この国難に際して初めて国家的立場に立ち、与党的行動を取ることができた。かれは素直にこれを喜び、無邪気にこれを光榮としたのである。これら本多の積極的協力の動機については日露戦争の項に譲ってさらに深める予定である。

(以下次号)



研究紹介 ②

# 視覚認知発生論



文学部 教授 佐々木正晴

眼を開けると、事象・事物の群れに隙間なく埋め尽くされていく。眼前に広がるこの世界は人間の存在を支え、その行動展開の可能性を与える。人間が初めて眼を開いたとき、この視覚的世界はいかなる姿で立ち現れるのであろう。

John Locke が記した「人間知性論」(一六九〇)の補稿に、

## 父母と教職員の会

### 総会・懇談会報告

六月一日(土)、本学にて二〇一三年度父母と教職員の会総会・懇談会が催されました。

総会では、佐藤和博会長が議長となり、以下の議案について話し合われました。

- 第一号議案 二〇一二(平成二十四)年度活動報告及び収支決算報告について
- 第二号議案 二〇一三(平成二十五)年度活動計画(案)及び収支予算(案)について
- 第三号議案 役員改選について

なお、役員については次のとおり、役員改選については次のとおり、懇談会では、学生生活や履修及び単位修得、



- お決定されております。
- 会長 佐藤 和博 (本学教授)
- 副会長 前田 晴茂
- 監事 福士紀美子
- 監事 佐々木正晴 (本学教授)
- 顧問 吉岡 利忠 (学長)
- 総会後行われた懇談会では、学生生活や履修及び単位修得、



## 二〇一三年度特待生授与者

- 二〇一三(平成二五)年度の弘前学院大学特待生に、五月二十九日(水)十二時より授状の授与が行われた。今年度の授与者は次の方々です。
- ◆文学部
    - 1年 丸岡 桃子 (青森北高校)
    - 2年 中野 仁美 (弘前中央高校)
    - 3年 川村 美咲 (木造高校)
    - 4年 境 達仁 (東奥義塾高校)
  - ◆社会福祉学部
    - 1年 貴田茉莉亜 (聖愛高校)
    - 2年 三上佑佳子 (弘前中央高校)
    - 3年 工藤 鮎子 (聖愛高校)
    - 4年 藤田 菜摘 (聖愛高校)
  - ◆看護学部
    - 1年 渡邊 美穂 (石巻西高校)
    - 2年 滝吉華菜子 (五所川原第一高校)
    - 3年 今野紗耶香 (橘高校)
    - 4年 吉田さくら (盛岡第二高校)

NO	開講日	担当者	タイトル
1	4月	18 学長 吉岡 利忠	私たちはどこから来てどこへ行くのでしょうか
2		25 株式会社 高森茗茶堂 主人 高森ましら	芭蕉の暗号
3	5月	9 文学部 教授 畠山 篤	森の新生-春を招く祭り-
4		16 看護学部長 榎引美代子	日常生活に活用できる東洋医学
5		23 株式会社 堀江組 代表取締役 堀江 敏志	太平山長勝寺
6	6月	30 英語・英米文学科長 佐藤 和博	再び翻訳について考える
7		6 元ソフトボール日本代表監督 弘前市市民文化スポーツ部 文化スポーツ振興課スポーツ推進係 主査 齋藤 春香	「世界一への道のり」～目標を達成するための組織づくりとは～
8		13 株式会社 南建設 代表取締役社長 南 直之進	社会貢献活動への関わり方
9	7月	27 弘前市ソフトボール協会 理事長 須郷 紘輔	芭蕉の旅と俳句
10		4 社会福祉学部 教授 笹森 建英	ピアノ音楽
11		11 弘前商工会議所 名誉会頭 新戸部満男	ユダヤ人に学ぶ 第一回
12		18 弘前商工会議所 名誉会頭 新戸部満男	ユダヤ人に学ぶ 第二回
13		25 英語・英米文学会	学生英語弁論大会

## 2013(平成25)年度 『特別講話』

NO	開講日	担当者	タイトル
1	1月	23 株式会社 陸奥新報社 編集局長 成田 幸男	新聞を101倍楽しむ方法

※一年生以外の学生も参加可能

内障で失明した十三歳の少年に対して、その混濁した水晶体を取り除く外科的手術を行い、その手術前後の知覚系活動に関わる状況を観察し、報告している。

がねを作成し、八日間そのめがねをかけ、Dolezal(一九八二)は、視野の周辺部位を制限するピンホールめがねをかけて、生活している。このようなめがねをかけると、当初、うまく歩けず転んだり、物をつかめず落ちたり、知覚行動面の随所に深刻な障害状況が起こる。この障害状況を打開していく過程から、彼らは人間の視覚系活動は生活体験に応じて変化する柔軟なシステムであると提唱している。

逆さめがね、ピンホールめがね、あるいはアイマスクをかけ、あちこちでウロウロしています。ときおり、このようなめがねをかけて数日間生活する風変わりな学生がいます。

弘前学院大学は培花女子大

去る3月24日から6日間、笹森教授、楊教授に同行し韓国のソウルと釜山を訪問してきました。韓国は人口約5000万人、そのうちほぼ半数に近い人がソウル都市圏に集中しています。ソウル、釜山共に『活気のある街』そして『勤勉な学生の多い街』という印象を強くして帰ってきました。

交流を推進していくには、外国語の習得が不可欠です。全学生諸君に卒業までに会話ができるよう第一外国語・第二外国語

の語学力向上に取り組んでほしいと思います。この点について、政府の教育再生実行会議は外国語教育にかなり突っ込んだ提言をしております。新学習指導要領は小学校5・6年生から週1時間の指導としてスタートしましたが、すでに指導学年を下げることや土曜日の授業等検討がなされ、研究校では土曜授業実施や小学1年生からの外国語指導が始まっています。

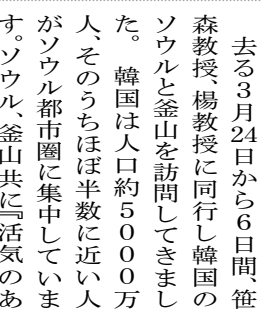
本学は中学・高校・大学の一貫教育に特色がありその効果が期待されています。入学時卒業時など節目節目に、TOEFL、TOEIC、各種検定を活用し学習効果を確認して進むことが学習意欲向上につながると思います。

最後に培花女子大学内の博物館で展示物を見学し、文化・スポーツ面で日本と共通するものを感じました。また港町、釜山で日本語教員と一緒に食べた海鮮鍋は大変美味で、鱈に野菜、蟹、海老、鳥賊、白子といった海産物に加えて煮上がったところに元氣な鞘をいれる、驚いた鞘が真っ赤になって踊りを始めるという趣向がこらされてきました。

学生諸君に是非一度挑戦してほしい韓国の交流大学訪問でした。

韓国の交流大学を訪問して

社会福祉学部 講師 八木橋鉄弘



韓国の交流大学を訪問して

韓国の交流大学を訪問して

韓国の交流大学を訪問して

2013 (平成25)年度弘前学院大学 父母と教職員の会収支予算書

(期間:平成25年4月1日から平成26年3月31日) (単位:円)

項 目	収 入 の 部			増 減	備 考
	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額		
前年度繰越金	1,269,430	1,269,430	1,145,324	△ 124,106	
入 会 金	471,000	471,000	576,000	105,000	3,000×192名(学生)
会 費	5,544,000	5,520,000	5,551,200	7,200	7,200×698名(学生) 7,200×73名(教職員)
雑 収 入	100	388	100	0	預金利息
合 計	7,284,530	7,260,818	7,272,624	△ 11,906	

項 目	支 出 の 部			前年度予算額比(増減)	備 考
	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額		
運 営 費	335,000	185,610	325,000	10,000	
1 事 務 費	100,000	83,370	100,000	0	事務用品等購入
2 通 信 費	100,000	55,040	100,000	0	役員会・総会案内送料
3 旅 費 交 通 費	15,000	0	15,000	0	交通費 等
4 会 議 費	30,000	7,200	20,000	10,000	総会飲物代 等
5 慶 弔 費	90,000	40,000	90,000	0	
活 動 費	700,000	560,656	700,000	0	
1 広 報 費	300,000	297,441	300,000	0	弘学時報印刷代他(4回)
2 父 母 懇 談 会 費	400,000	263,215	400,000	0	地区別懇談会(弘前・青森・盛岡)
活 動 協 力 費	4,450,000	3,852,782	4,350,000	100,000	
1 父 母・教 職 員 研 修 会 費	200,000	136,348	200,000	0	講師謝礼・研修会案内送料 等
2 教 職 員 研 修 補 助 費	300,000	265,390	300,000	0	東北私立大学協会研修会旅費補助 等
3 育 英 費 補 助 費	200,000	200,000	200,000	0	弘前学院奨学金
4 宗 教 部 補 助 費	550,000	503,691	550,000	0	宗教部活動補助
5 学 生 課 補 助 費	200,000	199,200	200,000	0	学生課補助
6 学 友 会 補 助 費	300,000	300,000	300,000	0	学友会補助
7 就 職 開 拓 補 助 費	800,000	485,247	800,000	0	企業・福祉施設訪問旅費 等
8 図 書 補 助 費	750,000	750,000	750,000	0	図書館図書購入費補助
9 学 生 募 集 活 動 補 助 費	550,000	549,678	550,000	0	学生募集に係る広告掲載等補助
10 研 究 所 補 助 費	350,000	213,228	250,000	100,000	地域総合文化研究所、福祉創造フォーラム補助
11 国 際 交 流 活 動 補 助 費	250,000	250,000	250,000	0	国際交流委員会補助
特 別 補 助 費	1,799,530	1,516,446	1,897,624	△98,094	
1 特 別 スポ ーツ 補 助 費	100,000	0	100,000	0	全国大会・東北大会等の上部大会出場補助
2 学 会・大 会 補 助 費	100,000	0	100,000	0	学会・大会活動補助費
3 設 備 補 助 費	964,000	952,000	964,000	0	
4 予 備 費	635,530	564,446	733,624	△98,094	
合 計	7,284,530	6,115,494	7,272,624	11,906	



### 看護学部就職セミナー 病院合同説明会報告

平成二十五年度学内就職セミナー病院合同説明会を五月二十五日(土) 本学体育館において実施した。今回参加した病院施設数は四十一、病院関係者は一〇一名、学生は三・四年生を含めてこれまで最高の一〇六名が参加し会場が狭く感じられた。

本セミナーは、病院施設人事担当者や看護師(卒業生を含む)さんから施設概要、勤務条件や職場環境、新人研修体制などの情報を収集し、就職先を決定するために活かすことを目的としている。

また、昨年度病院施設側から好評であった説明を三十分刻みの交代制とした。これは、学生が多く施設の説明を受けられるように配慮したものである。セミナーの様子は、各ブースともに熱のこもった説明が行われ、学生は熱心にメモを取りながら仕事を

内容や施設環境、住居などを質問していた。

また、卒業生が看護師として二十名参加し、後輩へ就職についてのアドバイスや看護師としてのやりがいや使命感などを熱く語っていた。先輩の生の声を聞き、看護職の重要性を改めて心に刻み、今後の勉学、就職活動へ意欲的に取り組むことを決意していた。

終了後実施した学生アンケート(重複回答)結果からは、約七十六%が興味ある施設の情報が見られ、約四〇%が就職を具体的に意識でき、約十八%が就職を希望する施設が見つかったと回答している。

一方、施設側の本学生に対する印象として、優しく、明るく、礼儀正しく、快く挨拶され、頑張り屋さんが多いと回答している。この回答から本学の学生は

### ウエルカムパーティー



英語・英米文学科四年 前田 彩花

五月二十八日火曜日の昼休みに、英語英米文学科による新生のためのウエルカムパーティーが開催されました。当日は天候にも恵まれ、弘前学院大学一号館前の藤棚には、たくさんの学生が集まりました。

今年のウエルカムパーティーには、現在ウイコンシン大学から来ている留学生三人も全員参加しました。音楽のかかる中、先生方も交えながらの賑やかなパーティーとなり、あつという間に時間が過ぎていきました。新入生の方から留学生に話しかけたり、一緒に写真を撮ったりする様子も度々見られ、お互いに交流を楽しんでいた。また、まだまだ平日本語を話すことのできない留学生を気遣って英語で会話をする場面もあり、今年の一年生



一応に病院施設側から、好印象を持たれていることが分かる。この印象が、これからの就職戦線での好結果をもたらすことを期待したい。

結びにセミナー開催にあたり、懇切丁寧に説明して頂きま

分、勉強その他について新入生よりも多くの情報を持っていきます。分からないことがある時は、頼れる先輩がいると心強いものです。また、先輩方も新入生のフレッシュさから改めて得られるものがあるのではないのでしょうか。

今年は新入生の数が多いことでもあって皆さんのドーナツが用意されましたが、参加者も多

### 人事異動

- ◆新任紹介
  - 社会福祉学部 准教授 高橋 和幸
  - 看護学部 助手 高橋 義孝
  - 事務職員 秘書室 伊藤安弥子
  - 総務課 石岡 千尋
  - 総務課 須藤 啓介
- ◆退職
  - 社会福祉学部 教授 八戸 宏
  - 看護学部 教授 神部 博
  - 教授 岡田 実
  - 准教授 半田 幸
  - 事務職員 秘書室 藤田 亜依
  - 就職課 三上 智子
- ◆異動
  - 大学直属専任講師・電子機器管理センター長 齋藤 昭
  - 大学事務長・総務課長 對馬 充
  - 学生課長(総務課より) 福士 秀文
  - 就職課(学生課より) 下山 桂子
- ◆看護学部
  - 看護学部長 教授 楠引美代子
  - 看護学学科長 教授 三上 聖治
  - 学務主任 教授 片桐 康雄
  - 学生主任 教授 福岡裕美子
- ◆社会福祉学部
  - 社会福祉学部長(学長兼) 教授 吉岡 利忠
  - 社会福祉学学科長 教授 葛西 久志
  - 学務主任 准教授 小川 幸裕
  - 学生主任 准教授 西東 克介
- ◆文学部
  - 文学部長 教授 井上 諭一
  - 英語・英米文学科長 教授 佐藤 和博
  - 日本語・日本文学科長 准教授 鎌田 学
  - 学務主任 准教授 坂井 任
  - 学生主任 講師 須川 公央
- ◆平成二十五年度学部・学学科長及び主任紹介
  - 文学部長 教授 井上 諭一
  - 英語・英米文学科長 教授 佐藤 和博
  - 日本語・日本文学科長 准教授 鎌田 学
  - 学務主任 准教授 坂井 任
  - 学生主任 講師 須川 公央

# 大学生になつて

英語・英米文学科一年 丸岡 桃子  
(青森北高校卒)



大学に入学してから早くも三ヶ月が過ぎました。入学した当初は、今までと全く違う環境で、うまくやっていたの不安でしたが、ウェルカムパーティやトリートメントなどを通じて新しい友達と出会うことができ、今は充実した日々を過ごしています。

大学の授業では、今まで学んだことのない分野を学んだり、考えたことがなかったことを考えたり、新しい発見があります。私は、英語を学びたいと思つて

# 被教育者から教育者へ

日本語・日本文学科一年 仙道 千裕  
(湯沢翔北高校卒)



「学び」は自身で取り組むものである。そんな当たり前のことを、私は大学の講義で初めて知った。もちろん、学習において自主性が非常に重要な位置にあることは、小学生時から何度も聞かされてきたので、理解はしているつもりだった。しかしだからといって、その重要性を

教育を受けているものである。私は大学生になるまで、「学び」の意味を知ることには無かった。正確には「大学生になったから」ではなく、「教育される側から教育する側に回った」から知れたことである。

弘前学院大学には、教育者を養成するシステムがある。国語教師・英語教師・社会主事等、これらの資格を得るためには、生涯学習概論を履修することが必要になる。この講義は私にとって、教育や学習の本質を考える良い契機となった。

大学は高度な学びの場である。カリキュラムから空き時間まで、自らの意思が学習を左右

# 将来へ繋がる毎日を

社会福祉学部一年 貴田茉莉亜  
(弘前学院聖愛高校卒)



新しいスーツに袖を通して大学に入学してから三ヶ月が経ちました。新しい学校に新しい先生、新しい仲間、最初は慣れることに精一杯でしたが今はだいぶ余裕ができ、感覚としてはまだ三ヶ月か、という感じです。

大学の授業はやはり専門的かつ実践的で、将来に役に立つ内容を学ぶことが出来ます。例えば基礎演習と呼ばれる少人数での授業は担当の先生との距離が近いのが大きな

# 新入生の夢と希望

## 挑 戦

看護学部一年 渡邊 美穂  
(石巻西高校卒)



弘前学院大学に入学し、早くも三ヶ月が過ぎようとしています。初めは、大きく環境が変わり不安でいっぱいでしたが、今では不安よりこれからの四年間に対する期待のほうが大きくなっています。

大学では、自分の学びたいことを、より深く専門的に学べるということもあって、とても楽しく学ぶことが出来ています。しかしその反面、覚えなければ

どうしたら子ども達に楽しんでもらえるかを考えるなど貴重な経験を積むことができ、子どもの視点で考えることの大切さを改めて実感しています。

# 確実な一歩

大学院文学研究科一年 小松原進三朗



大学院に入って、学部の頃と変わったことはなんだろうか。生活に大きな変化が出たわけではない。これまで通り、講義のある日は大学に通って学ぶ。しかし、学んだものに対する考え方は大きく変わったと言える。これまでと違うのは、学んだ知識を自分の研究テーマにどう活かすか、それを考えるように生かすか、それを考えるようになったことだ。学部の頃は、講義で学べることはとても興味深く面白かった。しかし、卒業論文とは関係のない知識だ、と思っていたので、講義と課題研究は別々のものとして捉えていた。そのせいで、どこか真剣に勉学に取り組んでいない自分というものがあつたと思う。そして、実際に卒業論文を書き上げてみると、自分がいかに狭い範囲の知識しかものを見ていなかったかに気がされた。大学院の講義では、様々な知識の繋がりを感ぜられる瞬間がある。全く関係ないと思つて



いた講義の内容が、思いがけず別の講義で生かされたり、考えを膨らませるのに役立ったりする。どんな知識にも必ず繋がりがあつたということ、改めて考えさせられた。

また、大学院での課題研究は、一年間しか準備期間のなかった卒業論文に比べると、倍の二年間を充てられるので、時間的な余裕がある。卒業論文のことを思い起こすと、指導が始まった当初は論文の輪郭も見えず、ただ狼狽していた。そのままの焦りと共に作業を進め、でき上がった頃には、本当に自分が目指していた形になったのか疑問を抱かずにはいらなかった。今は、あの頃に比べるときちんとした地盤を作る時間がある。焦らず、確実な一歩を進んでいる確信がある。今まで以上に広い視野で物事を捉え、繋がりを大事にしていきたい。これは勉学のみならず、人との付き合いにも言えることだろう。

これまで以上に多くを学び、自分自身がしっかりと納得できる修士論文を仕上げたいことを目標に、これからの大学院生活を過ごしたい。

私は将来、看護を通じて多くの人に、生きがいを与えてい

